

【補足資料】

日精樹脂工業とTOYOイノベックスの 経営統合に関するお知らせ



日精樹脂工業株式会社



TOYOイノベックス株式会社

2025年11月14日

目次

1. 会社概要
2. 経営統合の概要
3. 新会社の概要
4. 経営統合を判断した背景
5. お互いをベストパートナーと判断した理由
6. 経営統合により目指す姿
7. グローバルプレゼンスの向上
8. 製品ポートフォリオにおける補完性の高さ
9. 地域別売上高ポートフォリオのバランス
10. その他想定シナジー一覧

会社概要



日精樹脂工業株式会社

世界の日精 プラスチックをととして人間社会を豊かにする

1947年

- 射出成形機関連100%の専門メーカー
- 国内33%、海外67%のグローバル企業

- 当社グループとお客様をDXで繋ぐ基盤となるプラットフォームを創出する

- ① グローバル経営の強化
- ② 人的資本の充実
- ③ DX技術を駆使した製品の更なる進化
- ④ 積極的な営業展開
- ⑤ 生産体制の強化
- ⑥ リスク管理体制の強化

- 世界5極（日本・中国・タイ・米国・イタリア）
- 今後インドにも新設予定

経営理念・
パーパス

創業

売上構成比
(2025/3期実績)

目指す姿

中期経営計画
の基本方針

製造拠点

TOYOイノベックス株式会社

**『成形イノベーション & Customers' Value Up』
で未来を豊かに！世界を笑顔に**

1925年

- 射出成形機関連73%、ダイカストマシン関連27%の専門メーカー
- 国内30%、海外70%のグローバル企業

- 成形をモット簡単に！

- ① 持続的に稼ぐ力の向上
- ② 成形イノベーションの創出とCustomers' Value Upの進化
- ③ 経営基盤の更なる強化

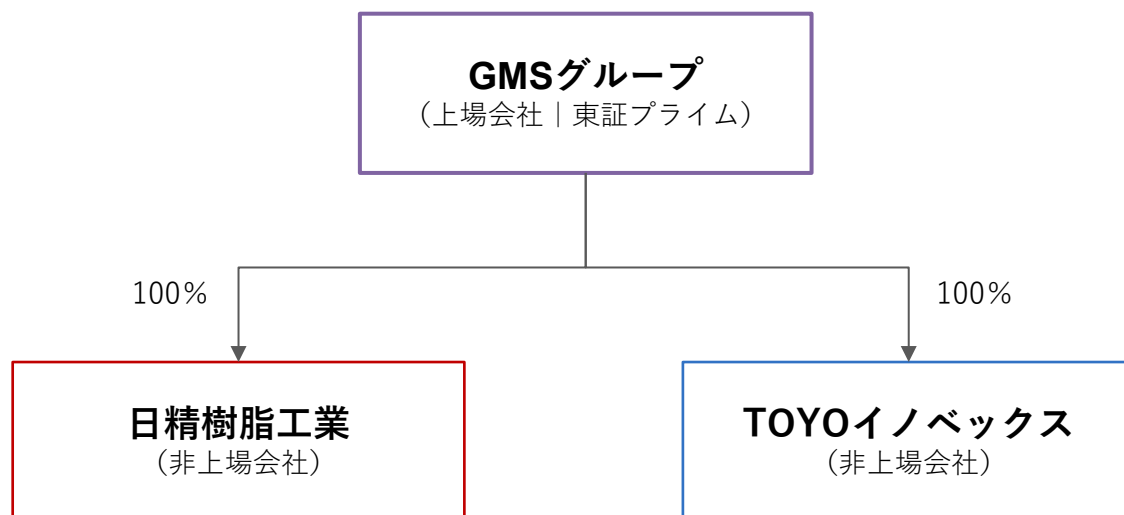
- 世界2極（日本・中国）

経営統合の概要（予定）

経営統合の概要

経営統合のスキーム	日精樹脂工業及びTOYOイノベックスを株式移転完全子会社、新規に設立する共同持株会社（GMSグループ）を株式移転完全親会社とする共同株式移転
株式移転比率	日精樹脂工業：TOYOイノベックス＝2：1.51 日精樹脂工業普通株式1株に対し、GMSグループ普通株式2株を交付 TOYOイノベックス普通株式1株に対し、GMSグループ普通株式1.51株を交付

<経営統合後の資本関係（2026/4/1～）>



今後のスケジュール

2025年11月14日（本日）	経営統合契約書の締結及び株式移転計画書の作成
2026年1月30日（予定）	臨時株主総会開催 (株式移転計画書の承認決議)
2026年3月30日（予定）	東京証券取引所及び名古屋証券取引所上場廃止日（日精樹脂工業） 東京証券取引所上場廃止日（TOYOイノベックス）
2026年4月1日（予定）	経営統合の効力発生日

新会社の概要（予定）

商号	GMSグループ株式会社 (英：GMS Group Co., Ltd.)			
市場区分	東証プライム市場			
本店所在地	東京都千代田区			
代表者及び役員の就任予定	代表取締役会長兼CEO	依田 穂積	取締役監査等委員	スティーヴン ブルース ムーア
	代表取締役社長兼COO	田畑 禎章		
	取締役	今井 昭彦	取締役監査等委員	西田 治子
	取締役	酒井 雅人	取締役監査等委員	佐和 周
			取締役監査等委員	横澤 靖子
事業内容	傘下子会社及びグループの経営管理並びにこれに附帯又は関連する業務			
資本金	3億円			
決算期	3月31日			
機関設計	監査等委員会設置会社			
会計監査人	太陽有限責任監査法人			
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社			

経営統合を判断した背景

両社を取り巻く環境

- ✓ 地政学リスクの高まりに伴う需要の低迷やコストの高騰
- ✓ アジア系企業の台頭によるグローバルでの競争激化
- ✓ 技能労働者不足や、環境保全に資する革新的な製品への要求の高まり
- ✓ インド等の新興市場の台頭やEV・PHV等の新たな成長市場の勃興
- ✓ サポート体制における即時対応力強化の必要性

共通認識

- ✓ 両社とも従来の延長線での経営環境への対応に限界があるとの共通認識
- ✓ そのため、経営統合による限界突破の可能性を模索し、お互いの意思を確認

経営統合を通じた 課題解決

経営統合は、お客様、従業員、株主などのステークホルダーの利益、ひいては両社の企業価値の最大化につながると判断

お互いをベストパートナーと判断した理由



1

基本的考え方の一致

専業メーカー同士として
「成形」を通じた社会貢献を
目指す理念

国内トップクラス、かつ、
グローバルでプレゼンスの高い
企業となる志

2

製品ポートフォリオに おける補完性の高さ

射出成形機での補完
(競合性は少ない)

ダイカストマシンでの補完
(日精樹脂工業はダイカストマシンは
手掛けず)

詳細はP.9参照

3

その他シナジー創出 への期待

グローバルプレゼンスの向上

地域別売上高ポートフォリオの
バランス

詳細はP.8,10-11参照

経営統合により目指す姿

新会社名

GMSグループ株式会社

(英：GMS Group Co., Ltd.)

目指す姿

「成形イノベーションで、顧客の新たな価値創造に貢献する、
グローバル・リーディンググループ」

両社の
想い

1

顧客視点で成形機のみならずプラットフォーム、トータルソリューションを
グローバルに提供するグループでありたい

2

業界再編のきっかけ、かつ、中心となる存在でありたい

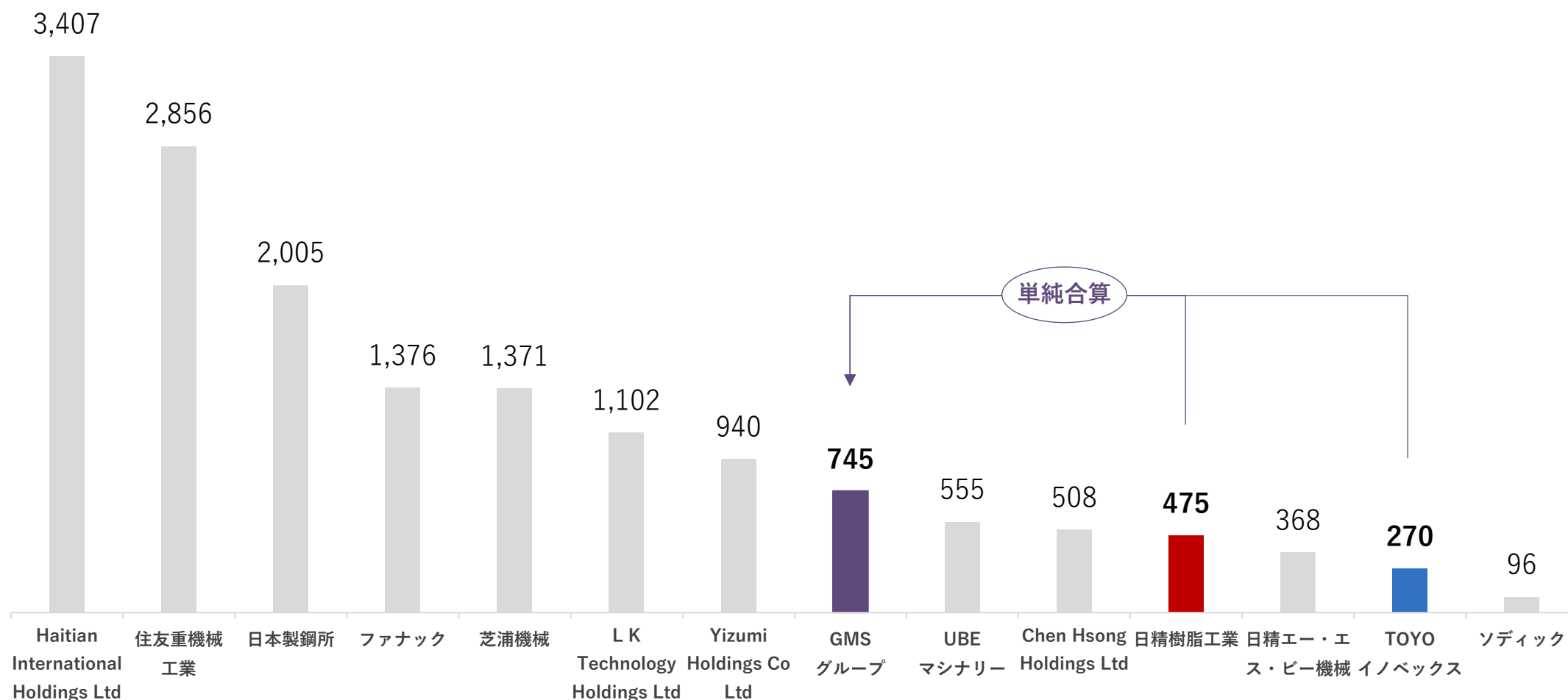
3

社員が自信と誇りを持って生き生きと働けるグループでありたい

グローバルプレゼンスの向上

- GMSグループとしての売上規模は約745億円を想定（両社の2024年度売上高を単純合算した場合）
- グローバルでも一定程度のプレゼンスを獲得

（単位：億円）



出所：世界及び国内の射出成形機メーカーの2024年度の射出成形機関連セグメント売上高（射出成形機の売上高が含まれるセグメント）に関する各社の公表情報を基に作成

製品ポートフォリオにおける補完性の高さ

- 両社が保有する射出成形機、及びTOYOイノベックスのみが保有するダイカストマシンによって、GMSグループとしての製品ポートフォリオの補完性は高く、顧客の幅広いニーズへの対応が可能となる

		サイズ（型締力）				
		小型 （～500t）	中型 （500～1,000t）	大型 （1,001～2,000t）	超大型 （2,001t～）	
射出成形機	駆動式	電気式				—
		ハイブリッド式				
		油圧式				—
	ダイカストマシン					—

地域別売上高ポートフォリオのバランス

- GMSグループの地域別売上高は、日本・アジア・欧米他それぞれの構成比が約30%となり、バランスがとれたポートフォリオとなる見込み。地政学リスクの影響が大きい当業界において一つの強みとなる

地域別売上高

(2024年度ベース)

NISSEI

+



=

**GMS
グループ**

総売上

475 億円

+

270 億円

=

745 億円

日本

158 億円

+

82 億円

=

240 億円

アジア

131 億円

+

137 億円

=

268 億円

欧米他

186 億円

+

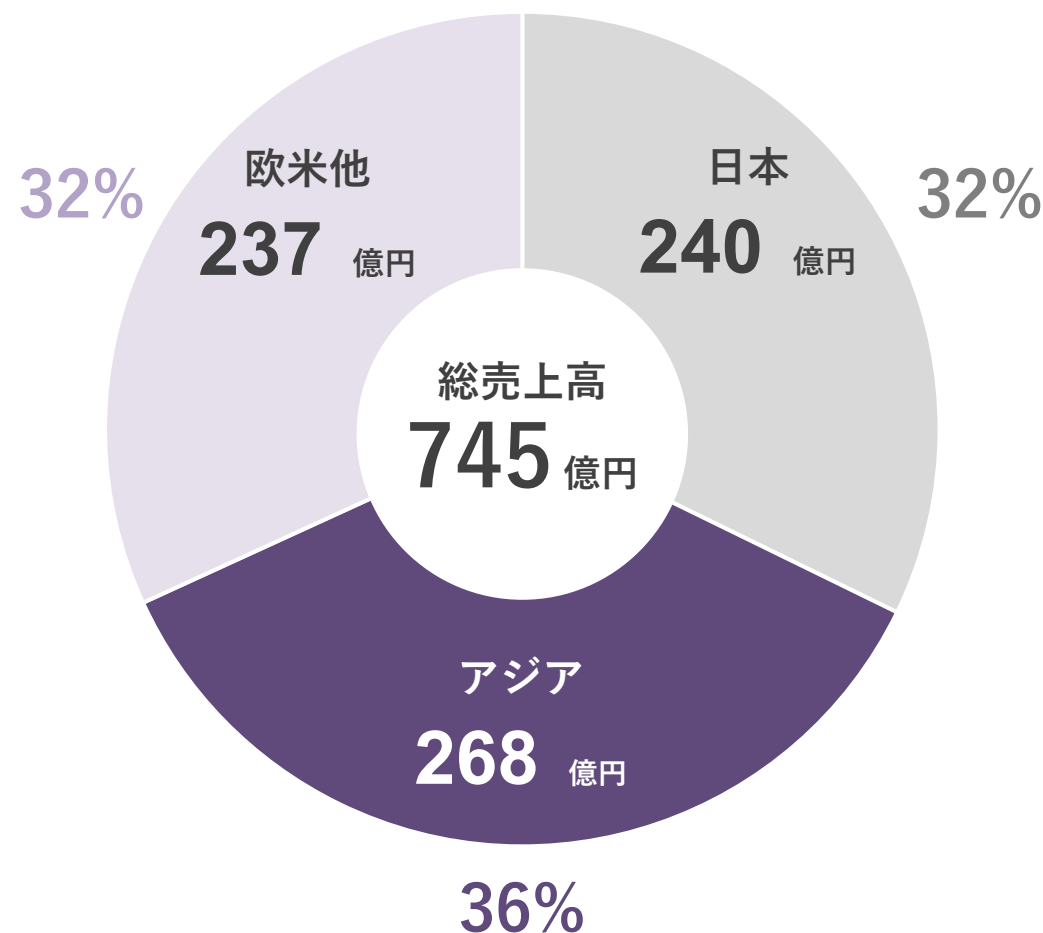
51 億円

=

237 億円

GMSグループ

(2024年度単純合算ベース)



< 注記 >

各社の2024年度の地域別売上高に関する公開情報を基に作成
TOYOイノベーションの地域別売上高は以下の前提で算出

- ・アジア：アジアと中国の地域別売上高の合計
- ・欧米他：米州と欧州他の地域別売上高の合計

その他想定シナジー一覧

バリューチェーン

設計技術
・開発

- ① 制御系技術の内製化・統合による競争力向上
- ② 機械系部品の共有化による原価低減
- ③ 技術ノウハウの共有化による開発スピードアップとイノベーションの創出
- ④ 機種種の絞り込みによるリソース最適化
- ⑤ 欧州リサイクル基準（DfR）にも適合する環境対応力向上

調達

- ① 共同/集中購買によるスケールメリット享受
- ② 海外調達先の拡大・強化
- ③ 調達管理オペレーションの合理化

製造

- ① 製造拠点の統合・相互利用による生産効率向上
- ② 検査工程自動化による生産効率向上

販売

- ① マーケティング機能の強化
- ② クロスセル促進による売上拡大
- ③ 製品ラインナップの充実

サービス

- ① サービス拠点・人材の相互利用によるサービス体制の強化
- ② サービス部品の共通化による在庫削減

本資料に記載している将来の業績に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、原材料価格、成形機業界の需要動向及び市況、為替変動などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

お問い合わせ先：

日精樹脂工業株式会社
常務取締役 今井 昭彦
TEL：0268-82-3000

TOYOイノベックス株式会社
執行役員経営企画室長 酒井 雅人
TEL：078-942-2345